

令和元年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 自主的精神に充ち、謙虚に学んで、豊かな教養を身につけた人間の育成 2 人の価値を尊び、敬愛の念をもち、協調性に富む人間の育成 3 常に全体の一員であるという自覚をもち、責任と恩義を重んずる人間の育成 4 心身の健全なる発達を図り、公正なる判断力を養い、己の道に徹し、進んで実行する人間の育成
(2) 現状と課題	1 本校は、上級学校進学率が90パーセントを超す県内有数の進学校であり、地域社会を牽引するリーダーの育成や医師不足の解消など青森県が抱える課題を克服するため、難関大学や医学部に進学者を増やすことが期待されている。また、単位制高校として、生徒のニーズに応じた多様な教育課程の編成と、習熟度別指導やチームティーチングなどきめ細やかな学習指導の充実が求められている。 2 悩みや困りごとを抱える生徒に対して、生徒個人の特別支援計画に基づき、具体的な支援を図る必要がある。
(3) 重点目標	1 自ら学ぶ意欲を持った生徒を育成するために、学習環境を整え、基本的習慣の確立を徹底するとともに、教え合い・学び合いを進める 2 生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を行い、生徒一人ひとりが輝く場面や場所を創る 3 いじめのない安心安全な教育環境づくりと人間関係づくりを促進する
(4) 結果の公表	学校ホームページで公開する。

学校整理番号	14
学 校 名	青森県立八戸北高等学校
全日制の課程	○本校・校舎・分校
自己評価実施日	令和2 年2月 3日(月)
学校関係者評価実施日	令和2 年2月13日(木)
(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
学校評議員 4名、保護者代表 3名 計 7名	

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	自ら学ぶ生徒の育成 充実した学習環境 教え合い・学び合いの推進	・生徒のニーズに応じた多様な教育課程の編成を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を進める。 ・夏の暑さ対策としての学習環境整備 ・課題を設定し、グループ学習やプレゼンテーション活動で、教え合い・学び合いを進める。	・各教科担当者に回り、探究学習を中心とした複数の学校設定科目を設置し、次年度から実施することになった。 ・各教科において、生徒が積極的に授業に取り組むよう、課題学習や対話的学習が取り入れられた。 ・学習センターにエアコンを設置した。 ・習熟度別授業編成やチームティーチングを実施した。	B	・新聞を読ませることで読解力を高めさせて欲しい。 ・授業評価が年間で2回行われていることは、1回目の後に振り返りができるため、有効なことである。 ・生徒は学校の課題等で時間に追われ、自主的に考えられなくなっているようである。	・単位制高校として、生徒のニーズに応じた多様な教育課程を編成する。申請中のSSH指定が得られた際には、新指導要領改訂を見据えた教育課程の大幅な編成に取り組むことになる。 ・課題学習や対話的学習の取り組みは、全教員が取り組むよう共通認識を図る。 ・習熟度別授業やチームティーチングは継続する。
2	生徒一人ひとりに応じた細やかな指導	・悩み事を抱える生徒は、ホームルーム担任や養護教諭だけでなく、スクールカウンセラーやメンタルコーチを活用し、生徒の気持ちに寄り添った指導を行った。 ・困りごとのある生徒は、特別支援に関わる共通認識を持つための研修を行うことで、支援計画を作成し、指導を行った。	・ホームルーム担任と養護教諭が悩み事を抱える生徒の状況を共有し、場合によってはスクールカウンセラーと連携して対応した。 ・困りごとのある生徒は、生徒や保護者の希望を確認し、場合によっては友人やクラスメートなどに困りごとの具体的内容を打ち明けることで、これらの関係者の理解を得た。また、外部講師を依頼して、特別支援計画作成のための教員研修会を行った。	A	・困難な状況に遭遇した際、乗り越える精神力が脆弱になっているように見受けられる。 ・ホームルーム担任のきめ細やかな指導がなされている。	・保護者アンケートの結果を見ると、スクールカウンセラーやメンタルコーチの活動に対する認知度が低い。学校ホームページなどで活動内容を紹介していく。 ・困りごとのある生徒は、慎重に検討したうえ、個別の特別支援計画を作成することで、組織的に継続した支援体制を整備する。
3	いじめのない教育環境づくり と人間関係づくり	・年2回のいじめアンケートの実施。 ・SNSへの不用意な書き込みに対する注意喚起。 ・いじめの対象になりやすい、困りごとのある(発達障害が疑われる)生徒への理解を図った。	・いじめアンケートでいじめの訴えがあれば、ホームルーム担任を中心に年次担当者が事情を確認し、その内容について、いじめ防止・教育相談委員会を開催し、早期解決にあたった。 ・年次主任などと管理職の間で行われる関係主任会議や拡大生徒指導会議において生徒の情報について共通理解を図り、集团的アプローチに努めた。	A	・SNSにおける不用意な書き込みが、小学校・中学校からのいじめの問題となっている。	・いじめの問題は、SNSへの書き込みなどによるものなど、いじめの形態が変化している。いじめにあたるSNSなどへの不用意な書き込みの未然防止の啓発を行う。 ・困りごとのある生徒の状況共有は継続する。そのうえでカウンセラーや医療機関との連携を密にしていく。

(11) 総括	学校生活全般において、生徒とのコミュニケーションを行いながら、自ら学ぶ意欲を持った生徒を育成することを重点に教育活動に取り組んだ。特別支援を必要とする生徒が増えている現状に鑑み、支援計画の整備に取り組むことになる。また、次年度から始まる大学入学共通テストの対策に継続して取り組み、生徒の希望する進路実現を図りたい。そのうえで単位制高校として、新学習指導要領実施へ向け本校の在り方や将来を見据え、生徒のニーズに応じた教育課程の編成を中心とした業務の推進、学校生活における生徒の活動を支援できる環境整備を継続したい。
---------	--